



検査をしても異常なし

「からだがだるい」「めまいがする」「胸がドキドキする」「頭が痛い」「食欲がない」「お腹が痛い」「体重が減った」「眠れない」などといった症状で病院を受診したけれども、検査をしても「どこも異常がありません」と言われた人はいらっしやいませんか。

人間の身体の臓器と脳の間には「自律神経」という神経があります。この神経の働きが乱れることで臓器や器官がうまく動かない場合に、このような症状が出てくる場合があります。

ホルモンの異常やストレスも

また、人間の身体は下垂体、甲状腺、副腎、卵巣など様々

異常はないけど調子が悪いとき 心療内科にかかってみませんか

彦根市立病院 心療内科 部長 椋田稔朗

な臓器から出るホルモンによって、機能が調節されています。こうしたホルモンのバランスに異常がある場合も、同じような症状が出るのが知られています。

さらに、今日のストレス社会のなかで、色々な理由で不安になったり、イライラしたり、気持ちが沈んだりすることで、脳が慢性的に疲労してこのような症状が出てくるのが知られています。しかし、そんなときでも、自分が受けているストレスに気づかないことも多いのです。

「心身一如」の考え方

このような症状に対して、心療内科では、心と身体の両面か

らアプローチしていきます。一般的な医学では、心と身体に分けて、別々に治療しますが、心療内科では、心と身体は同一のもので分けがたいとする「心身一如」の考え方のもとに治療を進めていくのが特徴です。

心療内科は、内科から生まれた診療科です。生活習慣病と言われる糖尿病・高血圧症・高脂血症をはじめ、気管支喘息や胃潰瘍など、慢性疾患の多くでは、病気が現れるきっかけや、治療がうまくいかどうか、患者の心のありようや、社会的な要因が、大きな影響を与えていることが知られています。こうした疾患の治療では、心と身体の両面からアプローチすることが重要であると分かってきているのです。

このような症状や病気で悩んでいる人は、一度心療内科を受診してみてください。あなたの心と病気の関係を考えることで、分かってくることもあると心療内科では考えるのです。

